

2025年を見据えた自医療機関の役割及び4機能別の病床の変動について

No.	医療機関名	設置主体	2025年を見据えた自医療機関の役割 (病院からの回答)	現状(R2.7.1時点)							2025年							現状と2025年の病床数の差異						
				機能別病床数 ① (病院からの回答)							機能別病床数 ② (病院からの回答)							②-①						
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養中等	非稼働	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	付帯・廃止等	介護連携への転居	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護連携への転居
1	郡上市市民病院	公立	・郡上市の中核的公立医療機関として、救急医療の機能充実、また郡上市唯一の産科施設としての小児・産科医療の充実、病診連携や地域医療機関との連携を積極的に促進し急性期医療の強化を進めていく。	150	0	100	0	50	0	150	0	100	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	美濃市立美濃病院	公立	・当院は2013年に地域の予測人口推移から2025年に向けて自院が地域で果たす役割を検討し地域密着型医療を提供する方針とし増改築計画に着手した。 ・その後、地域医療構想は2014年6月の地域医療介護総合確保推進法、同年10月の病床機能報告制度の施行を受け2015年の地域医療調整会議の開始とともに今日に至っている。 ・構想開始直後の2014年10月に当院は急性期一般病床122床のうち45床を回復期病床に転換、2016年には地域包括ケアシステムを支援するために増床を伴わない増改築を行い検診・在宅医療介護・かかりつけ病院機能を強化し、2018年11月に急性期一般病床をさらに45床回復期に転換し、現在の急性期45床+回復期77床としたことで、2025年に向けての医療供給体制の整備を完了した。	122	0	45	77	0	0	122	0	45	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3	国保白鳥病院	公立	・地域の現状を考慮し、急性期機能の一部を担う必要はあるが、ポストアキュート、サブアキュートを支え在宅へのつなぎあるいは在宅支援のための入院機能を持ちながら、外来・在宅を中心とした医療を展開し、保健介護との連携も継続しながら、市民の健康づくりを支援していく ・県北西部地域のへき地医療を安定的に支えるためにその基盤強化と連携の充実を図る ・令和2年4月1日より一般病床60床を46床に減床し、機能を回復期とし、2025年も同様の機能及び病床数とする。	46	0	0	46	0	0	46	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	中濃厚生病院	公的	・中濃圏域の中でも、主に関・美濃・郡上地域(長良川水系)における三次救急病院として「地域完結型」の医療を支える役割を担う。 ・また、更なる高齢化による地域の医療需要を見据え、高度急性期から急性期・回復期医療までの中核的な役割を担うと共に特定の診療分野や政策医療分野に対する診療体制の充実を図る。 ・具体的には、次の役割を担うべく取り組む。 「4疾病(精神を除く)・5事業にかかる診療体制の充実」「地域医療機関等との連携の推進」「予防医療の促進」「地域包括ケアシステム構築に向けた取組みの推進」「第二種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症等への医療提供体制の維持」「新型インフルエンザ等特別措置法に基づく指定公共機関としての体制の確保」 ・令和2年3月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、今後も地域の医療機関と密接に連携をとり、より質の高いがん医療の提供に努める。 ・2025年の必要病床数については、現状体制を維持するが、地域包括ケア病棟を回復期リハビリテーション病棟に変更し、回復期における医療提供体制を強化する。	489	119	326	44	0	0	489	119	326	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	木沢記念病院	公的	・中濃圏域の中心的な医療機関として、地域の医療機関との連携を強化し、高度急性期、急性期を主体とする機能を担う。 ・また、回復期病床についても拡充する。	452	219	191	42	0	0	502	252	158	92	0	0	0	0	0	50	33	▲33	50	0	0
6	可児とうのう病院	公的	現在の急性期を保ち、回復期病棟の充実させること。後方支援病院としての役割を担う。	199	0	102	97	0	0	190	0	102	88	0	0	0	0	▲9	0	0	▲9	0	0	0
6病院計				1,458	338	764	306	50	0	1,499	371	731	347	50	0	0	41	33	▲33	41	0	0	0	